

第1回 ライトノベル作法研究所主催 大夏祭り大会 選評評価シート

作品名：「導いてよ、ユラギ教！」 テーマ：「可愛い魔女なのに、自らの魔法で自爆して怪物になった運のない美少女」

キャラクター

55

ストーリー

50

テーマ(設定)

55

文章力

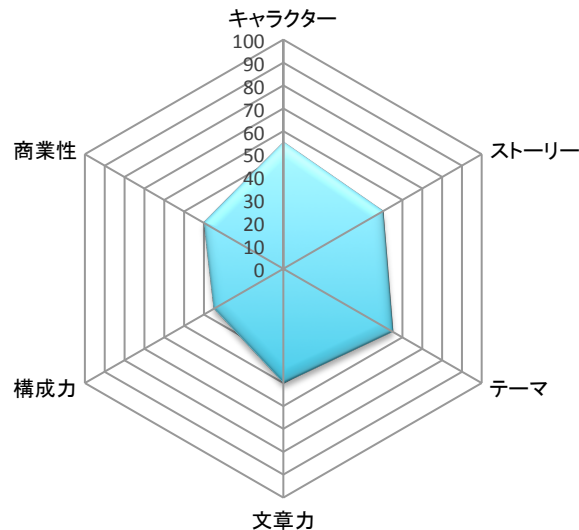
50

構成力

35

商業性

40



・見受けられる基礎的な問題点

- ・キャラクターに個性がない(もしくはその個性を生かしきれていない)
- ・キャラクターの設定にオリジナリティがなく、読んでいて新鮮さに欠ける
- ・キャラクターの行動に動機がなく、物語がご都合展開になってしまっている
- ・物語の方向性が定まっておらず、読む側にだるさを感じさせてしまっている
- ・物語に登場人物達にとっての障害が登場せず、盛り上がり欠ける
- ・テーマ(世界観)が既存の作品の焼き回しで差別化されていない
- ・物語上必要のない設定を多く登場させ過ぎている
- ・意味の無い暗いテーマ(人の死、暴力等)が扱われており、後味が悪い
- ・プロットの練り方が甘い(基本的な起承転結が意識されていない)
- ・時系列の流れが不自然、もしくは視点移動が多過ぎて構成が理解しにくい
- ・物語の情景描写が足りず、読んでいて状況を想像できない
- ・文章が難解かもしくは文法的に問題があり、よく読まないと内容が理解できない
- ・伏線的な要素がなさすぎて驚きに欠ける
- ・笑いをとれる下ネタが少なく、読んでいて冷める下ネタが多い
- ・「この作品の最大の魅力はこれ！」というものがない

・総評 (もしくは、今後これをやったら更に面白い作品を書けるようになるかもという話)

・妙にリアリティのある設定に引き込まれた。特に冒頭の「中途半端だからです」という台詞からの、ヒロインのカリスマ性の演出には非常に惹かれるものがあった。その動画を撮影していたのが主人公だったという繋がり方もうまいと感じた。

・しかし「あなたは今、何を想っているの……？」から、明らかに心の弱みを見せていることで、読み手としてはさっきまでのカリスマ性はどうしたと不自然さを抱かざるを得ない(弱みを露呈すること自体はよいのだが、あまりにも唐突過ぎる。ゆらぎ自身に、自分の弱みをなんとか隠そうという努力が一切見られないことが不自然さの原因であるように思える。「中学三年生の終わりに、あなたから一緒に勉強をしようって誘われた時、実はすごい嬉しかった」と平然を装って喋るが、涙だけは我慢できず真顔のまま泣き始めるくらい演出があっても良かったように思われる)

・「プロットの練り方が甘い」にチェックを入れたが、もはやプロットを書かずに作品を書いたのではないかという印象さえ覚えた。「とにかく飼に美味しいものを大量にいれておけば美味しい料理ができるのよ」と言っただけでも料理を作る漫画のヒロインと似たものを感じる。ただその反面、作者様はそれぞれのシーンがそれぞれどんな魅力を生んでいるかを理解しながら書いていると思われるため、あとはこのシーン同士を自然につなぐための工夫(要するにプロット作り)さえ施されれば一気に作品は超高級レベルになるのではないかと感じた。

合計加点ポイント 0

総得点： 285 / 600

B方式総合得点： 13538 点